

広島中学校「ことば科」における事例

広島県立広島中学校 矢原 豊祥

広島中学校では、特設教科「ことば科」を各教科の核となる「論理的な思考力・表現力」の育成を図るための教科と位置付け、国語系の「論理」領域と英語系の「ロジカル・コミュニケーション」領域の2領域に分けて設定し、その2領域で構成している。「論理」領域では、話型・文型等の型（約束事）をトレーニングし、数学・理科・社会等との合科的な問題解決的な学習やディベート等に応用させる。また「ロジカル・コミュニケーション」領域では、話型・文型等の型（約束事）を活用した外国語のライティング、スピーキングやディベート等を行う。「ことば科」をこの2領域で構成することで、日本語による論理的な言語運用能力の育成と、英語による論理的な言語運用能力の育成を図り、各教科等における言語運用活動をモニターし、その充実を図っている。

以下に示す目標・内容（指導事項）は、国語系の「論理」領域と英語系の「ロジカル・コミュニケーション」領域の2領域で共通して指導することとしている。そして、2領域を効果的に組み合わせたカリキュラムの中で育成を図っている。

目 標 目標を次の2つの観点に分けて示す。

A 思考すること

事象を多面的・多角的に考察し、その特徴を明らかにするとともに、その事象と他の事象との関連を見出し、その事象の持つ意義を明らかにすることができる。

B 表現すること

自分の考えを説明するにあたり、全体構成を明らかにしたうえで、相手にとってわかりやすい言葉を用いながら、自分の意図をより効果的に相手に伝えることができる。

内 容 内容を次の2つの観点に分けて示す。

A 思考すること

(1) 思考することの能力を育成するため、次の事項について指導する。

〈情報整理・分析〉（課題から情報を正確に取り出し、整理すること）

ア 目的や意図に応じて様々な資料を多角的に読んだり相手の意見を的確に聞き取ったりしながら、その特徴的な情報を正確に取り出し、その共通点や相違点を整理することができる。

〈総合・解釈〉（情報を関連づけて意味を理解したり推論したりすること）

イ 資料等から取り出した情報を比較するなど相互に関連づけ、その資料等の主題等を推論したり解釈したりすることができる。

ウ 抽象的な概念などを表す多様な語彙について具体例を挙げながら理解することができる。

〈評価・認識〉（情報を既存の知識や考え方と結びつけること）

エ 情報の送り手の論理の展開をとらえて内容の理解に役立て、体験や知識と関連づけ、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

(2) (1)に示す事項については、例えば次のような学習活動を通して指導するものとする。

ア 絵、写真、グラフなどの資料から情報を読み取ること。

イ インターネット、映像、新聞などのメディアから情報を読み取ること。

ウ 他者との討論などの交流を通して自分の考えを深めること。

B 表現すること

(1) 表現することの能力を育成するため、次の事項について指導する。

〈情報収集・整理〉（課題にかかわる情報を収集し、整理すること）

ア 課題にかかわる情報の収集や自分の意見を挙げ、取捨選択をしながら整理することができる。

〈構成・情報伝達〉（情報を関連づけて構成を考えて表現すること）

イ 自分の立場や考えを効果的に伝えるために、取捨選択した情報や意見の順序・構成を考え、全体構成や展開を明らかにして話したり書いたりすることができる。

ウ 自分のものの見方や考え方を、目的を踏まえ、異なる立場の相手や場面を想定し、筋道を立てて適切に文章等に話したり書いたりすることができる。

エ 相手にとってわかりやすい言葉を選択したり、抽象的な概念などを表す多様な語彙を文脈の中で適切に用いたりすることができる。

〈評価・認識〉（表現の仕方や内容を既存の知識や考え方と結びつけること）

オ 書いたり話したりした内容を検討したり、構成や述べ方について評価し合ったりして、よりよい表現のために役立て、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

(2) (1)に示す事項については、例えば次のような学習活動を通して指導するものとする。

ア スピーチやプレゼンテーションのような説明や紹介などを行うこと。

イ ディベートやパネルディスカッションのような対話や討論などを行うこと。

ウ 意見文や小論文などの論理的な文章を書くこと。

広島中学校「ことば科」のカリキュラム構成

		第1学年				第2学年				第3学年			
論理領域 (国語系)	関係 教科	国語	国語×理 科・社会	国語				国語×社会		数学×国語		国語×社会	
	単元	言語技術(話 型・文型)トレ ーニング	情報を読み 解く (理・社系)	プレゼンテ ーション				ディベート		情報を読み 解く (数学系)		弁論大会 (演説)	
	内容	話型・文型等 の型(約束事) をトレーニング する	写真やグラフ 等の資料から 情報を読み取 り、議論する	課題、場面等 に応じた説明 や紹介などを 日本語で行う				現代社会の問 題をテーマ に、ディベ ートを行う		統計資料を作 成し、そこか ら分かる情報 を読み取る		現代社会の問 題をテーマ に、自分の考 えを演説する	
ロジカル コミュニ ケーショ ン領域 (英語系)	関係 教科				英語×国語	英語	英語×国語		英語		英語×国語		英語
	単元				プレゼンテ ーション	スキット	パラグラフ ライティン グ		レシテーシ ョン		英語ディベ ート (基礎編)		英語ディベ ート (応用編)
	内容				課題、場面等 に応じた説明 や紹介などを 英語で行う	日本等の昔話 を要約し、英 語劇で再現・ 表現する	外国の子供を 対象に、学校 紹介文を英語 で書く		英語で書かれ た物語や演説 を暗唱し、再 現・表現する		身近な問題を テーマに、英 語でディベ ートを行う		身近な問題を テーマに、英 語でディベ ート大会を行う

(矢印は、同じタイプの言語能力を育成する単元のつながりを示すもの。「英語×国語」は英語科と国語科の教員がチーム・ティーチングで合科的・教科横断的な連携を示すもの。)

国語系「論理」領域では、初めに言語技術的な「話型・文型等の型(約束事)」をトレーニングによって習得させ、他教科との合科的なチーム・ティーチングによる課題解決的な学習単元でその「型(約束事)」を活用して発表や議論をする場を設定している。例えば、「意見(結論)→根拠・理由付け」等のような説明の技能を身に付けさせたいうえで、グラフ等の資料から特徴を捉え、既習の社会的な知識や考え方をを用いて課題を解決し、説明し合うなどの課題解決的な活動を行う。

英語系「ロジカル・コミュニケーション」領域においては、英語科の基礎知識(必修英語で習得した力)に加え、国語科とのチーム・ティーチングにより、国語系「論理」領域で学んだ言語技術的な「話型・文型等の型(約束事)」を英語による言語運用で活用させるようにしている。例えば、日本語によるプレゼンテーション(説明・紹介)を学んだ直後に英語によるプレゼンテーションの学習に入ったり、日本語によるディベートの学習経験を積んだ後に英語によるディベートを学習したりするようにし、言語能力等の育成を充実させた。

また、ことば科で習得した話型・文型等の型(約束事)を英語科はもちろん他教科等でも活用している。同時に、国語科や英語科等で学んだ知識・技能をことば科の各領域に学習においても活用している。相互作用のかつスパイラルな指導となり、機能的なカリキュラム構成・学習環境が整っている。